

はながたみ からかざり 花筐に空飾

PL 人数：2～4 人 篇：1 つ(所要時間：4 時間～)

使用ルルブ：基本、ヘレティカノワール、ノブレスストーリア

備考：特になし

■概要

●物語の背景

灰が森に臨む黒曜と水晶白の館。寄木のような外観は主の半生を物語る。愛する妻が病に倒れ、残された娘を叙勲した。二人で暮す館には、太陽の火が降り注いだ。幾度も試練を乗り越えて、彼の騎士トラウゴッド卿は叡智の真髄へと辿りつく。さあ讃えよう、諸君。今宵は耽読卿の祝宴の席。彼の卿の考究の功を賞せよ。常夜国に生まれた真実の、名誉ある証人となるのだ。

●注意

・PL 人数が少ない場合は PC1 を優先して選ぶ。

●NPC

・『耽読卿』トラウゴッド・リヒテンベルク・フォン・ダストハイム

〔男、叙勲年齢 44 歳、騎士歴 80 年、荒涼とした灰色の瞳、夜空の如く深き藍の髪、蠱惑的な長い指、謹厳実直な態度〕

表向きは賢者の道にあるが、知る人ぞ知る腕の良いエナメルムの技師。騎士としての勤めを果たしながら血の繋がった実の娘を育て上げ、遂には己の手で叙勲するに至った。研究を続けながら穏やかな生を娘と共に過ごすかと思われたが、10 年ほど前に彼らの住まう館が太陽の欠片の急襲に遭い、以降二人で館に籠るようになった。そして今宵、館の中で磨き上げられた知と技の集大成となるものの完成を祝って宴席が設けられ、PC らは彼の館へと招かれた。

・『籠中卿』ナディア・リヒテンベルク・フォン・ダストハイム

〔女、叙勲年齢 20 歳、騎士歴 69 年、荒涼とした灰色の瞳、しっとりと濡れた黒髪、表情に乏しい、朗らかな美声〕

騎士となった実の父・トラウゴッド卿に育てられ、慈愛に満ちた生活を送った。やがて父に叙勲を受けた彼女だが、彼女自身が父の下に残りトラウゴッド卿の手助けをすることを望んだ。その後騎士生の多くを父の研究の手伝いに費やし、表舞台に立つことは少なかつた。10 年ほど前の太陽の欠片の急襲以降、ますます館の外で彼女の姿を見かけることはなくなっていた。

■ハンドアウト

●PC1：深窓の奥に近く

消えざる絆：ナディア[友]

推奨の道：近衛、賢者、密使

序言：ナディア嬢は聰明かつ穏やか、故に己を揺らがせぬ騎士である。貴卿は数少ない彼女の友人。時には宮廷で、時には野山で、時には暖炉の前で、語らい、笑い合い、微睡みあう魂の繋がり。そう信じていたが、彼女からの便りが途絶えて10年ほど経つ。噂には彼女の住む館に太陽の欠片が墜ちたと言うが、救援の声は無く、ただ息災を無味に語る言葉のみであった。その折届いた、彼女の父の荣誉を称える祝宴の知らせ。目的は違えど、訪れぬわけには行くまい。

●PC2：真相を語るを待つ

消えざる絆：トラウゴッド[友]

推奨の道：領主、賢者、後見

序言：貴卿はトラウゴッド卿の長らくの友。彼の卿が賢慮の徒であり、実の娘を慈しむ歩む道正しき騎士であることは貴卿の記憶が保証しよう。しかし彼が磨き上げる知の結晶は、貴卿には危ういものに見えた。表立っては名こそ知れぬものの、彼が作り上げるエナメルムは多くのものを魅了する。故に予期せぬ争いごとに巻き込まれることも多い。加えて、今宵の祝宴も大凡彼らしくはない。何か良からぬ思惑が絡まねば良いが……。

●PC3：心奏の声を求む

消えざる絆：ナディア[恋]

推奨の道：遍歴、夜獣、流浪

序言：貴卿には忘れ得ぬ記憶がある。それは森の中を彷徨い辿りついた白亜の館。甘く澄んだ声に誘われ、貴卿が見上げた窓辺には、黒髪を夜風に靡かせ謡う淑女がいた。それが籠中卿、ナディア・リヒテンベルク・フォン・ダストハイムとの出会いであった。彼女の歌声こそ記憶に鮮烈であるが、彼女の言葉を、視線を貴卿がその身に浴びたことはない。あの夜から10数年が経つ。今宵一

度彼女に相見える機会があるのならば、逃す理由はない。

●PC4：深層に触れるを望む

消えざる絆：トラウゴッド[欲]

推奨の道：賢者、技師※、博士※

序言：貴卿にとってトラウゴッド卿は憧憬に値する騎士であった。エナメルムの研究において第一線を駆ける彼の騎士は、貴卿の腕を磨く良い励ました。しかし此度の宴の噂は、貴卿の胸に暗雲を過らせる。いったいどのような技術が彼の卿の居城で生まれたのか。語られざる宴席の舞台裏に、貴卿の知識欲を揺さぶった。ならばこの目に刻まねばなるまい。貴卿は逸る気持ちを抑えるように、祝杯を手に取った。

※隠された道を選択する場合は DR に確認する